柳井市立柳井小学校

1 研究主題

「学び、つなぐ子どもの育成」

~「楽しい」「だから」「もっと」のある授業づくり~

2 主題設定の理由

(1) 今日的課題から

現代社会は、自然災害や環境問題など予測が難しく解決が困難な問題に直面しつつ、少子高齢化・情報化・グローバル化が急速に進んでいる。そのような社会情勢の中で、子どもには、様々な変化や問題に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を自身で選択して活用しながら概念的な知識を習得し、新たな価値につなげていくことが求められている。そこで学校教育において"よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る"という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子どもに育む「社会に開かれた教育課程」の実現をめざしていくことが必要である。

(2) 本校の学校教育目標から

学校教育の今日的課題を踏まえ、本校は学校教育目標を、「子どもが輝く学校」とし、柳井小児童の誇りを胸に、高い志と夢をもち、社会の変化に柔軟に対応し、地域とともに活き活きと学ぶ"はつらつ柳井っ子"の育成をめざしている。そのために主体的・対話的で深い学びの実現を目指した日々の授業を通して、児童にコミュニケーションカ(対話力)・シミュレーションカ(段取りカ)・プレゼンテーションカ(発信力)を身に付けさせたい。さらに、今年度より、一人一台のタブレット端末を活用した授業づくりに取り組んでいく。一人一台のタブレット端末を活用していくことで、子ども一人ひとりの実態に合わせた個別最適な学びを展開することを目指すと共に、従来の授業にタブレット端末の機能を融合させていくことで、子どもの学習意欲の向上や思考の可視化・共有化などの多様な学習スタイルを実現することが可能である。

(3) 昨年度の研究の成果と課題から

昨年度は、「共に考え、学びを広げる子どもの育成~自己の高まりを実感できる授業づくり~」を主題に掲げ、研究に取り組んできた。学習課題の設定や協働的な学習の工夫、児童が自己の高まりを自覚し主体的な学びにつながるような振り返りのさせ方に視点をおいて授業づくりをしてきた。その結果、以下のような成果と課題が見られた。

【成果】

- ・教師、子ども共に、他者と関わりながら学習することのよさを感じることができた。
- ・学習課題の設定や振り返りの工夫により、子どもが意欲的に学習に取り組んだ。

【課題】

・単元での問題解決的な学習の一層の充実や全員が参加できる授業づくりを目指したい。

(4) 本校児童の実態から

本校の児童は、活動的でのびのびとした児童が多い。全体的に、素直な気持ちで教師の指導を受け入れ、落ち着いた雰囲気でまじめに学習に取り組むことができる。また、整った学校図書館環境により読書への関心も高く、進んで本を読む姿が見られる。さらに、一人ひとりを大切にした特別支援教育の充実により、仲間を受け入れる気持ちが育ってきており、協力し合って一つのことに取り組むことができる。

しかし、近年、少しずつ学力差が目立ってきている。全ての子どもにとって有意義な学びを保証するために、子ども一人ひとりの実態に合わせた支援や授業づくりが必要であると共に、子どもが授業での学びと実生活とのつながりとを意識できるような手立てが必要である。また、素直な反面、学習に対して受け身な児童も多く、学習意欲を高めることで主体的な学びの実現に繋げていきたい。

そこで、今年度は、協働的な学習を通して自己の高まりを実感できる授業づくりを基本姿勢として踏襲しつつ、子どもが授業で学んだことを他の場面や生活にも生かすことができるような授業づくりに取り組んでいきたい。また、今年度より導入された一人一台のタブレット端末を活用して子どもの学びを保障できる授業づくりに取り組んでいきたい。研究主題を「学び、つなぐ子どもの育成」とし、副主題を『「楽しい」「だから」「もっと」のある授業づくり』とし、研究を推進することとした。

3 研究仮説

昨年度の研究で取り組んだ学習課題の設定の工夫や学習活動,振り返りの仕方を工夫していくことで,子どもは学習に主体的に取り組んだり,学習後に自己の考えの変容や理解度を自覚したりすることができるであろう。

また、今年度より導入された一人一台のタブレット端末を活用して授業を工夫することで、子ども 一人ひとりの個別最適な学びを進めることができるとともに、多様な学習展開により、子どもはより 主体的に学習に取り組むことができるだろう。

4 研究の視点

〈視点1〉 ひとりひとりを大切にするための支援

- ○タブレット端末を活用し、子どもの個別最適な学びを保障できているか →タブレット端末を活用しながら各教科・領域等の目標に迫る学習を...
- ○個に応じた支援を行い、子どもが意欲的に、粘り強く学習に取り組めているか 〈視点2〉 学びをつなぐための手立て
- ○単元での学びや一単位時間の学びをつなぐ手立て→見通しと振り返りを効果的に行っているか
- ○児童の思考を活性化させるための発問や切り返しであるか
- ○全ての児童が新たな学習課題や意欲を生み出すための工夫があるか
- ○授業で子ども同士や他者をつなぐ手立て→協働的な学びの実現のための工夫があるか
- ○既習単元や他教科、生活との関連を意識できるような支援があるか

5 今年度の主な研修

- (1) 全体授業および公開授業
 - ・ 同学年ブロックを中心にした授業研究
 - 主題解明に向けた一人一公開授業
 - ・ ボーダーレスな授業公開(学年間, 異学年間, 少人数指導, 外国語活動など)
 - ・ 初任者・フォローアップに関する研修
 - ・ ICT等の活用に関する研修
- (2) 学力テストの結果の分析と活用
 - ・ 取組の実践と評価

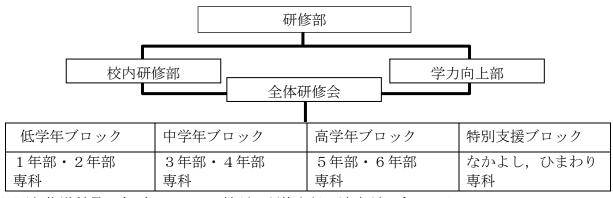
(3) 学習支援

- ・ 学習の仕方の基礎の定着(「学習のきまり」、ノート指導など)
- ・ 『聞くこと』『話すこと』『話合うこと』の具現化(教室掲示)
- 少人数指導, 算数教室
- ・ 効果的な教材活用のあり方
- ・ 家庭学習の奨励(「家庭学習の手引き」「自主学習の手引き」の活用)
- ・ 朝学習の充実(読書タイム〈月〉・モジュール学習〈火・木・金〉専科部と連携) ※ 学年の実態に合わせて「タブレット端末を活用した朝学」を実施予定
- ・ やまぐち学習支援プログラムの活用
- ・ 授業評価 (毎学期ごと実施) とその活用
- ・ 地域の人と協働したキャリア教育の推進

(4) 人間関係作り

- ・ 学級集団作り
- ・ 心を耕す道徳の授業実践(「考え、議論する」道徳の授業実践)
- ・ 縦割り班清掃, 縦割り班遊び
- 集会活動
- 特別支援部,通級指導部との連携
- ・ 体力増進への関心の強化
- すこやか週間の取組

6 研修組織



- ※通級指導教員は各ブロックに、教頭、研修主任は適宜話し合いに入る。
 - ○研修部 ・・・・ 研修計画の推進・立案・研修内容の事前検討
 - ○学力向上部 … 学習指導改善(授業評価)/学力定着状況確認問題等の実施
 - ○校内研修部 … 研究主題と内容についての企画・推進
 - ○全体研修会 … 研究主題と内容についての共通理解・授業研究における研究協議
 - ○各ブロック … ブロック別の研究課題の設定と実践・授業研究に向けての研修
 - (各学年部) … 学年の研究課題の設定と実践・授業公開計画の立案(一人年一回)
 - 学力向上プランの作成・学力テスト分析

7 研修計画

月	研修内容	備考(研修形態・日程)
4	年度初めの確認事項について(研修主任)	職員研修(4/5)
	食物アレルギーの緊急時対応について(養護教諭・食育担当)	全体会議(4/6)
	通級指導教室について(通級指導教室主任)	全体研修(4/14)
	特別支援教育について(特別支援学級主任)	
	研究主題・研究内容・研究方法などの検討, 指導案形式の確認,	
	学力向上プランの作成について(研修主任)	
5	研修計画の立案(研修主任)	全体研修 (5/19)
	ICT を活用した授業づくり研修	
6	AEDに関する研修(養護教諭)	全体研修(6/2)
	全体研究授業①指導案提案	全体研修(6/9)
	全体研究授業①総合的な学習の時間	全体研修(6/23)
	(兼 柳井中学校区 小学校一斉授業(5校時))	
	地域支援・人事班学校訪問	(6/9)
7	通級指導に関わる研修(通級指導部)	全体研修(7/21)
	特別支援教育に関わる研修(特別支援部)	全体研修(7/26)
8	全国学力・学習状況調査・学力テストの結果と考察,	全体研修(8/26)
	2 学期以降の校内研修について (研修主任)	
9	全体研究授業②指導案提案	全体研修(9/22)
1 0	全体研究授業②生活科	全体研修(10/13)
	全体研究授業③指導案提案	全体研修(10/27)
1 1	全体研究授業③社会科	全体研修(11/12)
	人権研修 (講師)	全体研修(11/16)
	地域支援・人事班学校訪問	全体研修(11/29)
1 2	学力向上プラン,研修収録の作成について(研修主任)	全体研修(12/15)
1	学力定着状況確認問題と今後の取組,	全体研修(1/26)
	今年度研修の成果と反省について (研修主任)	
2	校内研修の成果と課題	全体研修(2/16)
	次年度の研修に向けて (研修主任)	
3	次年度の研修について (研修主任)	全体研修(3/23)

[※] 上記の研修に加えて、月に月に $1\sim2$ 回程度、終礼の時間を用いてタブレット端末の活用における研修を実施する。

8 実践事例

単元名 第5学年「自動車をつくる工業」

子どもについて

本学級の子どもは、単元「我が国の食料生産」の学習において、我が国の農業のさかんな地域の特徴について学習してきた。そこでは、山形県庄内平野や柳井市の農業の様子を関連させながら、農家が米作りを続けていくためのよりよい取組について探ることができた。このような子どもが、我が国の工業生産の学習においても、優れた製品を生産するための大工場の様々な工夫や努力を捉えるとともに、社会の諸課題に対して向き合う中小工場の取組に学びを広げていくことで、生産者や消費者などの立場から、多角的によりよい工業生産の発展の在り方を探っていく姿に期待している。

単元について

本単元は、小学校学習指導要領の内容(3)に該当する。我が国を代表する自動車工業における、製造の工程や、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目しながら、工業生産に関わる人々が工夫や努力をしながら、我が国の工業生産を支えていることを理解することをねらいとしている。ここでは、工業が国民生活を支えていることの理解を深めるとともに、我が国の工業の発展を探らせるための単元構成や教材の工夫が必要であると考えた。そこで、自動車工業における大工場の取組に加えて、独自の取組で社会の諸課題を解決しようと努力する中小工場の工夫や努力を捉える学習を設定した。そのために、単元の後半で、柳井市の自動車加工工場の取組が社会に果たす役割について調べる学習を設定した。このような単元構成を講じていくことで、子どもは、資料の情報や生産者の声から、中小工場の工夫や努力を捉え、地元柳井市の中小工場が日本の現代社会に果たす役割を捉えていくことができ、我が国の工業生産の側面から、自分なりによりよい社会の在り方を探っていくことができると考えた。

教材について

学習問題1については、愛知県豊田市のトヨタ自動車を中心に取り扱い、学習を進めた。

学習問題2については、山口県柳井市にあるオオシマ自工株式会社(以下:オオシマ自工)を取り扱った。オオシマ自工は、創業当初は、トラックの輸送設備を開発する企業であった。2000年代より、移動理美容車、移動用のスーパーや農協の販売車などの開発・販売を始め、東京オリンピックに向けたイスラム教徒のためのモスク車、災害時の移動用ランドリー車やコロナ禍における移動用葬儀車など多岐にわたる加工開発を行っている。これらは、オオシマ自工に依頼した消費者の需要に応えようとする生産者の工夫や努力の姿であり形であると考えた。

また,このような中小工場の取組の加工自動車の開発は,製品を注 文した消費者ではなく,過疎化して買い物する場に困る中山間地域に 住む高齢者,介護施設にいる高齢者,被災者やイスラム教徒のような





多くの人々の生活を支えることにつながる。工業の立場からよりよい社会の在り方を示しており、内容の 取扱い(3)のイにも当てはまる教材であると考えた。

このような視点から、身近な地域にある中小工場を、学習問題2における「我が国の工業の発展」を理解していくための一事例として取り扱うこととした。

目 標

我が国の自動車工業において、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して考え、 表現することを通して、自動車工業に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品 を生産するよう様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解できるようにするとともに、 学習問題を主体的に追究・解決しようとしたり、工業の発展について考えようとしたりする態度を養う。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製造の工程,工場相互の協力関	①製造の工程,工場相互の協力関	①我が国の工業生産についての
係,優れた技術などについて,統	係,優れた技術などに着目して,	学習問題について,予想や学習
計や写真資料、一人一台端末な	問いを見出し、工業生産に関わ	計画に基づいて振り返ったり
どを使って調べ、必要な情報を	る人々の工夫や努力について考	見直したりして,学習問題を追
集め、工業生産に関わる人々の	え,表現している。	究し, 解決しようとしている。
工夫や努力を理解している。	②工業の人々の工夫や努力を,消	②学習したことを基に,我が国の
②調べたことを図や文にまとめ,	費者の需要や社会の変化と関連	工業について,消費者や生産者
工業生産に関わる人々は、社会	付けて考え, 工業生産に関わる	の立場などから,これからの工
の需要や社会の変化に対応し,	人々の働きを考えたり,工業の	業生産のよりよい発展につい
優れた製品を生産するよう様々	発展について考え、表現したり	て考えようとしている。
な努力をして、工業生産を支え	している。	
ていることを理解している。		

指導と評価の計画(総時数9時間)

次	時	ねらい	主な学習活動・内容	主な評価規準(方法)		
_	1	自動車の移り変わりの様子	○写真資料から、昔から今の自動	知・技①		
		や自動車工業のさかんな地	車の移り変わりを比較する	態度①		
		域を調べ,学習問題を設定	・自動車の改良	(行動観察・記述)		
		する	○自動車工業に関する学習問題			
			を設定し、学習計画を立てる			
			・自動車工業がさかんな地域			
		型門罪 1				
	学習問題 1 					
	自	動車工場で働く人々は,より。	よい自動車を生産するためにどのよ [、]	うな工夫をしているのだろう		
	2	自動車が製造される工程を	○組み立てラインで行う作業に	知・技①		
		調べ,工場で働く人々の工	ついて調べる	思・判・表①		
		夫や努力を捉える	・機械作業と人の作業	(行動観察・記述)		
	3	部品工場の様子について調	○関連工場の様子を資料から読	知・技①		
		べ、組み立て工場と関連工	み取り、関係図を作成する	思・判・表①		
		場の関係を捉える	・工場相互の協力関係	(行動観察・記述)		
	4	完成した自動車が消費者に	○完成した自動車の輸送方法や	知・技①		
		届くまでの過程を調べて,	海外での現地生産のよさにつ	思・判・表①		
		輸送方法や現地生産につい	いて調べる	(行動観察・記述)		
		て理解する	・輸送方法と現地生産			
	5	消費者の要望に応え、優れ	○環境や人に優しい自動車の性	知・技②		
		た技術を生かした自動車づ	能や製造された背景を調べる	思・判・表②		
		くりについて理解する	・新しい自動車づくり	(行動観察・記述)		

	6	学習問題1についてまと	○生産者と消費者などの立場を	知•技②		
		め,学習問題2を設定する	基に,一人一台端末を用いて学	態度②		
			習したことを図にまとめる	(行動観察・記述)		
	学習問題 2					
	日本の工業生産は、優れた技術をどのように生かし、発展していくとよいのだろう					
		物サナスウ科まと加工して	○放利町ままな放利畑芝皮まの	t ++-0		
	7	柳井市で自動車を加工して	○移動販売車や移動理美容車の	知・技②		
		販売している中小工場の特	製造の工程について調べる	(行動観察・記述)		
		徴を捉える	・自動車を加工する中小工場			
	8	柳井市の中小工場の、消費	○様々な種類の加工された自動	知・技②		
		者の要望や社会の変化に応	車を製造する理由や社会への	思・判・表②		
		じた工夫や努力を捉える	影響を調べる	(行動観察・記述)		
			・社会の変化に応じた工夫や努力			
三	9	学習問題2について調べた	○6時で作成した図に、新たに学	態度②		
		ことをまとめる	習した内容を加筆・修正する	(行動観察・記述)		

単元の実際

○学習問題1における単元の流れ

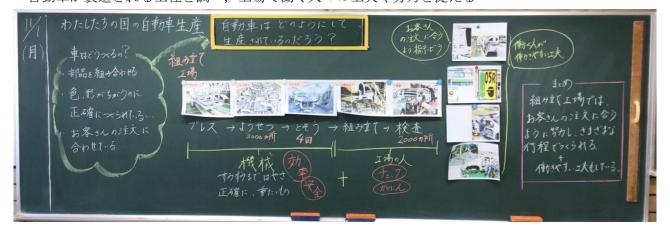
第一次1時

自動車の移り変わりの様子や自動車工業のさかんな地域を調べ、学習問題を設定する



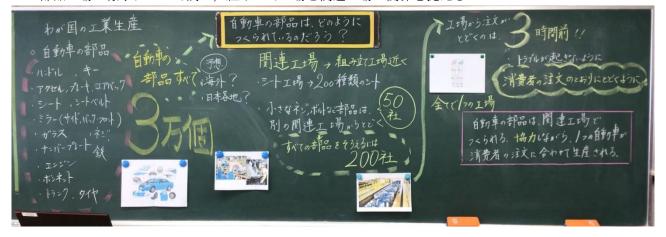
第二次1時

自動車が製造される工程を調べ、工場で働く人々の工夫や努力を捉える



第二次2時

部品工場の様子について調べ、組み立て工場と関連工場の関係を捉える



第二次3時

完成した自動車が消費者に届くまでの過程を調べて、輸送方法や現地生産について理解する



第二次4時

消費者の要望に応え、優れた技術を生かした自動車づくりについて理解する



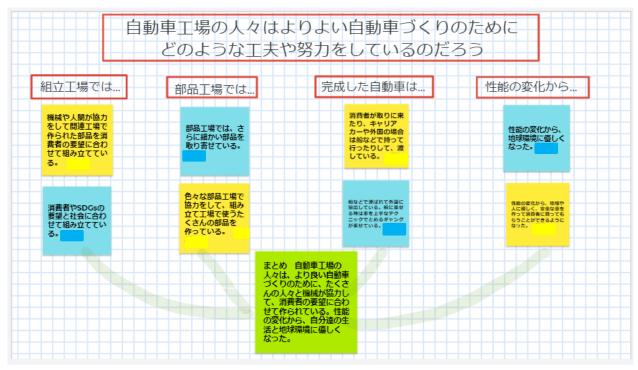
ここでは、現在教師が乗っている自動車(2003 年生産)と最近の自動車の性能を比較する場面から、学習に入った。時間の変化で比較しながら、近年、自動運転やハイブリッドなど安全や環境に配慮した自動車の性能に着目させ、複合型の課題設定「昔に比べて自動車の性能が変化しているのはなぜか?」という学習課題を設定した。生産者や消費者、地球環境を大切にしようとしている世の中の流れを子どもは意識しながら、小集団ごとにボードにまとめた。その後、全体で交流しながら、生産

者の話を基に、学習のまとめを行った。時間の変化で比較しながら課題設定をすることで、子どもは 消費者の需要や世の中の流れなどを意識して学習を進めていくことができた。また、消費者と生産者 の関係を図化していくことで、子どもの理解も深まったように感じられる。

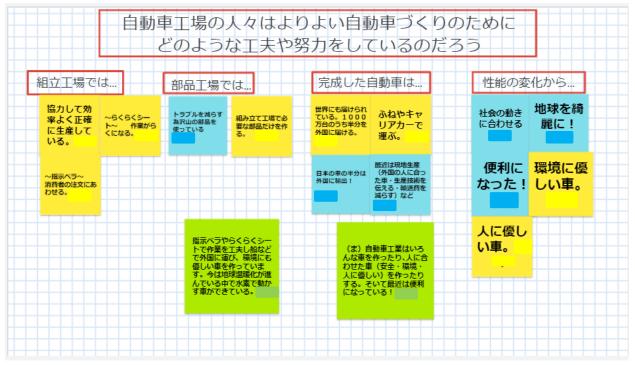
第二次5時

学習問題1についてまとめ、学習問題2を設定する

ここでは、タブレット端末を用いて学習問題1についてのまとめを作成する時間を設定した。 勤務校のある自治体では、iPad が1人1台配付されている。Google の jamboard を用いて、二人一組でボードにまとめさせた。子どもは、次のようにまとめた。



O男児とU女児のまとめの様子



M男児とN女児のまとめの様子

単元のはじめに設定した学習問題を解決するために、学習課題を追究する中で学んだことを付箋に書き込ませ、整理させた。そして、学習問題についてのまとめをまとめさせた。子どもたちが書いた付箋の内容から、生産者は注文された内容を正確に生産するよう工夫したり関連工場と協力しながら無駄なく部品を生産して自動車を完成させたりしていることを理解していた。また、優れた技術を生かしながら社会の変化や消費者の需要に応えるための研究開発を進めていることも理解していった。

〇学習問題 2 における単元の流れ

第二次6時

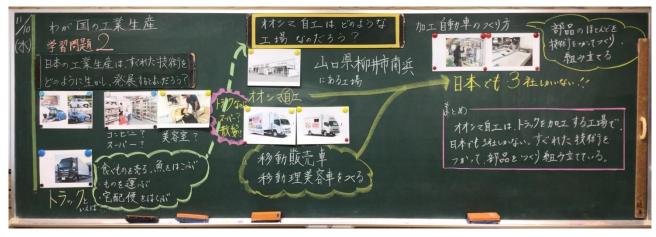
第二次第5時の最後に、日本の自動車工業の優れた技術を、これからさらにどのように生かしていくとよいだろうか、と子どもに問いかけ、学習問題2「日本の工業生産は、優れた技術をどのように生かし、発展するとよいのだろう」を設定した。

授業の流れ

○ 移動販売車や移動理美容車の車内の写真を提示しながら、これらはトラックを加工して販売や理 美容を行っている事実を伝えた。

子どもは、「トラックなのに?」「食べ物や魚、ものを運ぶためのトラックなのに?」と様々な驚きをしていた。そこで、会社の写真を提示し、iPad の Google Earth で検索する時間を設けた。すると、「柳井市にあるの?」「昔行ったゴミ処理場の近く」「家の人が働いている会社のすぐ近く!」など、柳井市に存在していることにさらに驚いていた。そこで、オオシマ自工は、どのような会社なのか追究するための学習課題を設定した。

○ 加工自動車の製造の過程について、自動車工業の学びと比較しながら予想する場を設定した。その後、オオシマ自工の実際の製造の過程を動画で紹介し、部品のほとんどを自社で製造して組み立てている事実や社長の話から全国でも3社しか存在していない事実から、子どもは驚くとともにオオシマ自工や製造されている加工自動車について関心を高めていった。



第二次7時

授業の流れ

○導入場面では、8種類の加工自動車の製品を提示し、「オオシマ自工の製品ではないのはどれ?クイズ」を 出題した。子どもに予想させた後、Google classroom を用いてiPadに解答を送信した。

オオシマ自工の加工自動車じゃないものは?

- ① 美容室・理容室となり、散髪できる加工自動車
- ② 食品や日用品などを販売できる加工自動車
- ③ 銀行ATMとしてお金を引き出せる加工自動車
- 4 牛や豚などの家畜を運ぶことができる加工自動車
- ⑤ 亡くなった人のお通夜や葬式ができる加工自動車
- ⑥ 大きな荷物の運搬ができる加工自動車
- ⑦ 洗濯物の洗濯や乾燥ができる加工自動車
- ⑧ イスラム教の人々がお祈りできる加工自動車

実は、全ての加工自動車がオオシマ自工で製造しているものである。子どもは、「ずるい」「え? うそ!」と言いながらも、「こんなにたくさんの種類をつくっているのか…」とつぶやいていた。

その後, 教師は「これらの加工自動車はどのような順番で生産されているのだろう?」と時間の 流れで予想させた後, 教師は次のような資料を提示した。

子どもは、「昔は、ものを運ぶためのトラックを製造していたのに、今は不自由な人のため」という発言や「昔に比べて色や大きさ、種類もたくさん増えている」という発言が生まれた。

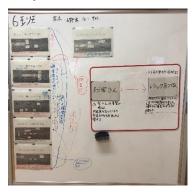
そこで、教師は、「昔に比べて、オオシマ自 工の加工自動車の種類が増えたのはなぜだ ろう」という学習課題を設定した。



○展開場面では、学習課題についての小集団の考えをまとめる時間を設定した。







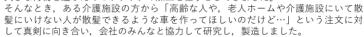
ホワイトボード上では、生産者や消費者の関係を図で作成しながらまとめる姿がみられた。また、 前時までの学習とつなげながらボード上でまとめている姿もみられた。

その後、全体の場で小集団の考えを交流する場を設定した。するとある子どもから、『前の「性能の変化」の学習と似ている』というつぶやきが出てきた。子どもの中で生産者と消費者の関係が見え、生産者の努力の先にある社会への影響を捉えさせるために、教師は次の資料を提示した。

子どもが資料を読み終えた後、気になるところを問うたところ、『「会ったことのないどこかの誰か」が気になる』という発言が出た。そこで、教師は「オオシマ自動車で幸せになる人ってどのような人だろう」と問うた。子どもは、「スーパーが近くになくて移動が不自由な人が買い物できる」「家の近所になくても、スー

オオシマ自エ 社長の話

オオシマ自工では、もともとは、私の父親が社長だった時から、 大きな荷物を運ぶためのトラックの加工を仕事としてきました。



そこから、「家の近所のスーパーが無くなって買い物が行けない人が買い物できるように…」というスーパーからの依頼の移動販売車や「銀行が減ってお金をおろすのが大変」という銀行の人の依頼から移動金融車などのいろいろな注文を受け、開発してきました。

最近では、オリンピックに合わせて日本には少ないイスラム教の人のためのモスク車や災害時に洗濯に困る人のための移動ランドリー車、コロナ禍で葬儀に困る人のための葬儀車など、様々な注文に合わせて加工自動車を開発しています。

私たちの自動車によって、会ったことのない人かもしれないけれど、どこかで誰かの生活が幸せになれる自動車を作れることを誇りに思っています。

パーや ATM があると便利」「災害にあって洗濯に困る人が衛生的な生活ができる」という発言を基 に、授業のまとめをした。

このような学習を通して、子どもは、オオシマ自工の優れた技術を生かした加工自動車により、 製品を注文した消費者だけではない多くの人々の生活が便利になったり快適になったりして、より よい社会が創られていくことを理解することができたと考えている。



成果と課題

成果としては、次の2点が挙げられる。

① 学習課題の設定について

単元の中で、必要に応じて複合型の課題設定を取り入れた。本実践では、「自動車の性能の変化」と「オオシマ自工の製品の種類の変化」の学習においてである。

どちらも時間の流れにより変化した理由を探らせる学習で、子どもにとって課題が焦点化して把握しやすく、生産者や消費者の関係に目を向けやすくなった。

② 単元・一単位時間における授業設計について

本実践では、学習問題1と学習問題2を設定した。学習問題1は「自動車生産」を追究する学習問題であり、学習問題2は、主に「(自動車)工業の発展」に関する学習問題であった。

学習問題を2段階で設定することで、子どもは学習問題1での学習を生かして、オオシマ自工の 製造の行程や種類の変化を予想し、追究する姿がみられた。

また、学習問題2を設定してオオシマ自工を基に追究したことにより、子どもは「生産者」、「消費者」、「近所に買い物する店がなくて困る人々や被災した人々」などと多角的に社会的事象を捉え、工業の発展により多くの人々が便利で快適な生活ができるようになるという学習内容の獲得につながりやすかったと考える。

課題としては次の2点が挙げられる。

① 学習の広がりについて

本実践では、学習は上述した部分で終えたが、学習の可能性として、「オオシマ自工の製品のように、優れた技術を生かして多くの人々がよりよい生活になっているものはないだろうか」といった課題を設定することで、他の場面においても工業の発展によって高齢化社会への対応や環境への負荷を少なくしている工業製品を調べる活動も考えられた。そうすることで、子どもは自動車生産の学習を超えて、さらに工業の発展を理解することができたかもしれない。

② 課題設定について

「昔に比べて自動車の性能が変化しているのはなぜだろう」や「昔に比べてオオシマ自工の製品の種類が増えたのはなぜだろう」のように、課題の抽象度が高かったかもしれない。「昔はなかったのに自動運転機能が生まれたのはなぜだろう」や「オオシマ自工が移動ランドリー車を生産したのはなぜだろう」とすることで、子どもにとっては具体的で考えやすかったかもしれない。

9 今年度の校内研修の成果と課題

① 一人ひとりを大切にするための支援

成果

○教師側

- ICTのいろいろな効果的な活用方法を知ることができた
- ・困り感のある子どもを把握し、指導に生かすことができた
- ・教材の提示・再現性が容易になり、授業がしやすくなった

○子ども側

- ・自分の考えを表現しようとする子どもの意欲の高まりが感じられた
- ・1人1人が参加できるきっかけや考えを表現する場を保証することができた

課題

- ・さらによりよい活用法があるのでは?
 - → I C T にとらわれすぎな場面が散見された。使うのが目的となってはいけない
 - →「主体的・対話的・深い学び」や子どもの資質・能力の育成につながっているか
 - →操作活動によって思考が止まってしまい、逆にハードルが高くなる子どもの姿も見られた
 - → I C T の得意・不得意な子どもの顕在化が見られ、異なる場面での差もみられた

② 学びをつなぐための手立て

成果

- ・生活との関連を意識することで、子どもの学びも学校から家庭へと広がることもあった
- ・単元を通して見通しと振り返りを意識することで、子どもの学びのつながりを可視化できた
- ・子ども×子ども、子ども×教材 場(対話)の設定を意識することで、授業がイメージしや すくなることもあった

課題

- ・振り返りを重視しすぎ?
 - →振り返りも大切ではあるが、振り返りを書きたくなるような学習課題も大切である
 - →教科横断的な視点や、カリキュラム・マネジメントの視点も大切にしていきたい
 - →協働的な学びの視点を深めていくことも大切にしたい